

ウオッカ

51,167票



2009年 ヴィクトリアマイル (GI)

観る者の心を震わせ続けた名牝

歴代2位タイの平地GI・通算7勝。牝馬によるダービー制覇。4歳時と5歳時、2度のJRA賞年度代表馬受賞。でもそんな数字や勲章以上に、ウオッカの走りはいつも観る者の心を震わせてくれた。

2歳レコードで阪神ジュベナイルフィリーズを制したウオッカの3歳春には、宿命のライバル、ダイワスカーレットとの対決が待っていた。チューリップ賞は差し切って勝利。桜花賞は届かず敗戦。いずれも後続を引き離しての一騎打ちだった。その次走、オークスではなく日本ダービーへ向かったウオッカは、牡馬を相手に3馬身差で圧勝して驚かせる。牝馬の日本ダービー制覇は戦後初、64年ぶりの快挙だった。

その後7戦、勝利から見放されたウオッカの久々の戴冠は、4歳春の安田記念。たまった鬱憤を晴らすような3馬身半差の復活劇だった。秋には天皇賞(秋)で逃げ粘るダイワスカーレットを追い詰め、レースレコードを大幅に更新してゴール。長い写真判定の末、ハナ差で勝利したこのレースは、今も歴史的名勝負として語り継がれている。

翌2009年、5歳を迎えたウオッカはドバイ遠征でジェベルハッタ5着、ドバイデューティフリー7着とまさかの連敗を喫してしまう。しかし、これで終わらないのがウオッカという馬だった。

帰国後、ウオッカはヴィクトリアマイルに出走。4、5番手追走から直線、ほぼ馬なりのまま先頭に立つと、さらにぐんぐんリードを広げていく。はるか後方で激しい2着争いが繰り広げられる中、今もレース史上最大着差となっている7馬身差でゴール。まさに胸のすくような独走劇だった。

次走の安田記念は一転、馬群に囲まれながらギリギリで抜け出して連覇を達成。秋はジャパンカップを、今度は好位から魂の粘り込みでハナ差制して優勝。走るたび、勝利するたびにドラマチックな感動を生んだ名牝は2011年、顕彰馬に選出された。

第4回 ヴィクトリアマイル (GI)

2009年5月17日 東京競馬場 1600m(芝・左) 曇・良 18頭

着順	馬名	性齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/着差	人気	通過順位
1	ウオッカ	牝5	55	武豊	角居勝彦	1:32.4	①	⑤④
2	ブラボーデイズ	牝4	55	生野賢一	音無秀孝	7	⑩	④④
3	ショウナンノピア	牝6	55	柴田善臣	岡田裕男	1	⑦	⑩⑩
4	ザレマ	牝5	55	安藤勝己	音無秀孝	ハナ	④	⑩⑩
5	ジョリーダンス	牝8	55	四位洋文	堀宣行	アタマ	⑥	⑩⑩

ウオッカ *Vodka*

2004年4月4日生 牝 鹿毛

父:タニノギムレット 母:タニノシスター 母の父:ルシオン
 生産:静内・カントリー牧場 馬主:谷水雄三氏
 通算成績:26戦10勝(うち海外4戦0勝)

主な勝ち鞍

- 2009年 ジャパンカップ (GI)、安田記念 (GI)、ヴィクトリアマイル (GI)
- 2008年 天皇賞(秋) (GI)、安田記念 (GI)
- 2007年 日本ダービー (JpnI)、チューリップ賞 (JpnIII)
- 2006年 阪神ジュベナイルフィリーズ (GI)



2007年日本ダービー (JpnI)

メモリアルヒーローファン投票結果

2023年に行った70周年メモリアルヒーローファン投票、本競走の結果は以下の通りです。
1位:ウオッカ(51,167票)

2^位 **アーモンドアイ** 39,126票



2020年の優勝馬。香港遠征を熱発で回避、急遽参戦の有馬は9着、ドバイではレース自体が中止と歯車の噛み合わなかった同馬が、その鬱憤を晴らすような快勝を収めた。

3^位 **グランアレグリア** 35,722票



レース史上最高となる単勝支持率59.0%に応えた2021年の優勝馬。芝1600メートルのGIは本競走など5勝を挙げ、絶対的な能力を見つけた。

4^位 **ブエナビスタ** 15,569票



4コーナー12番手から鮮烈な差し切り勝ちを見せた2010年の優勝馬。秋には天皇賞(秋)も制し、同年のJRA賞年度代表馬に輝いている。

5^位 **ヴィルシーナ** 13,010票



2014年の本競走を11番人気で勝利。近走からは一変した「逃げ」での勝利であった。ヴィルシーナは前年の本競走も制しており、レース史上初の連覇を成し遂げている。

